

「大蛇」について ③

正月になると、一般家庭では玄関に「しめ飾り(しめ縄飾り)」を飾ることがある。年神様という新年の神様をお迎えし、家族・家庭の安全・幸福を祈願する正月行事の一つである。これは、自分の家が年神様をお迎えするのにふさわしい神聖な場所である、ということを示すために始まったといわれている。

確かに「しめ縄」は、神社など神聖な場所と現世とを隔てるための結界を表すもので、神垂をたらしることが多い(写真1)。その由来は、天岩戸から出てきた天照大神が、再び岩戸の中に戻れないよう塞いだときの「しめ縄」に由来するという。そのさいの「しめ」は、“神様の占める場所”の意味だとされるが、はたしてそれだけの意味なのだろうか。



写真1 桜井市の檜原神社の「三つ鳥居」に張られ飾られた「しめ縄」。

たとえば、ヘビは水田・稲作との関係が非常に深い。ヤマカガシやシマヘビは、収穫前の稲穂を食害するスズメなど、“害鳥”を捕食してくれるということで「野神さん」と呼ばれ、感謝されている。アオダイショウも、収穫後のお米や種籾を食するハツカネズミを捕食してくれるということで、「八王子神」として祀られている。マムシもまた、「夜刀の神」として民間信仰では祀られ、畏怖の対象にもなっている。これらのように、稲作文化が開花した古代より、ヘビは「大蛇」として祭られるようになったのではないかと考える。

それは「蛇縄」、「勧請縄」、「道切り」などと称される藁で編んだ縄が、集落の入口に張られ、飾り付けられることから類推できる(写真2)。



写真2 天理市滝本町に張られ飾られた「蛇縄」。

この「蛇縄」は、はたして一般家庭の「しめ縄飾り」と同じように、神聖な集落とそれ以外の場所とを分ける結界を表すものなのだろうか。むしろそうではなく、集落に邪気や悪霊が侵入しないよう、畏怖の対象であるヘビを模して備え付けたのではないかと考える。もちろん、「蛇縄」の基本は「しめ縄」である。

そもそも、「しめ縄」はヘビの何を模したものでしょうか。

日本で本州・四国・九州に広く分布するヘビは8種しかおらず、全種とも奈良県内に分布する。なかでも、昔から多くの人々が生活場所としていた平野部や山麓部では、主にシマヘビ、ヤマカガシ、マムシが田畑に、アオダイショウが人家周辺に、シロマダラが道路の石垣などに、ジムグリが雑木林に、そしてヒバカリが里山の田畑に生息している。残りのタカチホヘビは、里山から少し奥に入った山林を生息地としている。

普段の私たちの生活場所では、シマヘビ、ヤマカガシ、マムシ、アオダイショウを見る機会が多い。とりわけ、田植え時期にあたる4～6月に、水田や小川の周辺域ではシマヘビが活発に活動する。ちょうどその時期は繁殖期にあたり、あちこちで交尾個体を見ることができ(写真3)。雌雄は、お互いを締め付けるようにからみ合う。まるで螺旋状に捻られたDNAの形状に似る。またその形状は、「しめ縄」のモデルだとされている。

稲作文化と「龍蛇信仰」が密接に関係していることは、本シリーズで繰り返し述べてきた。そして架空上の動物としての「龍」と現生する「蛇」が、水田稲作にかかる農耕神・守護神として畏怖の対象になっていることも、述べた。出雲の佐太神社では大祭の神事には必ず海神としての「ウミヘビ」が奉納さ



写真3 黒化型シマヘビの交尾の様子。写真の右上部分は雌雄それぞれの頭部が、左下には尾部が螺旋状に絡まっている。「しめ縄」の形状に似る。平野薫禮氏撮影。(https://www.youtube.com/watch?v=Xxg9hpm-vtk)

れ、また諏訪大社では毎年、元旦の朝、境内のお堀で越冬するカエルが数匹捕獲され、生きたまま串刺しにされて供えられる。これらは、「蛇神」に対する畏敬を表したものである。

このように、「蛇神」への畏敬が「しめ縄」となり、それを基に「しめ飾り」・「蛇縄」が伝承行事として引き継がれてきたのではないか。また、スサノヲ神社(大和神社境内地南端に隣接)では、子どもたちが藁で編んだ「蛇」を担いで回る「野神まつり」(天理市の無形民俗文化財第1号)がある。これも、「蛇神」への感謝を表す行事ではないだろうか。

一般に、哺乳類では胚は子宮に侵入するとすぐに着床するが、イタチ科やクマ科などの一部では、胚は子宮内で浮遊状態を続け、条件が整うまで着床しない個体もある。この現象を「着床遅延」といい、ヘビの仲間にもその現象がある。たとえばマムシの中にも、交尾後4年以上産卵しない個体がいる。このように、ヘビは交尾しなくても幼蛇として孵化する卵を産む、と誤って理解したときには、ヘビの神格化が容易に起こりうるかもしれない。

いずれにおいても、「しめ縄」はヘビの交尾姿そのものであり、夫婦和合の姿を示唆するものでもある。またそれは、子孫繁栄の象徴であり、邪気・悪霊の侵入を防ぐ守護神にもなる。「しめ縄」は、「大蛇」の一つの姿を表しているように思う。